

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103185		
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミリー		
事業所名	グループホーム・ファミリー桑原		
所在地	松山市桑原7丁目1番36号 大和マンション1階(電話) 089-921-4165		
管理者	谷本 貴子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 7 月 16 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 8 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 12 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 15 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	19 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 5 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	4 名	要介護 2	3 名
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にあるマンションの1階部分を改装したシンプルなホームである。ホーム内はベージュを基調にしており明るく、玄関や共用空間は広く、中庭を通して両ユニットを行き来できる。運営者は総合病院も経営しており、協力医療機関として月2回の往診を行い、医療面でも安心な体制がある。介護計画は、アセスメントを基に、本人、家族、職員、医療関係者が話し合っって計画を立て、毎月のカンファレンスで見直し、新たに現状に即した計画を作成している。運営者及び管理者と職員は意思の疎通が図られており、チームワークよく日々のケアに励んでいる。食事は栄養士の指導の下、利用者との協働によるバランスの取れた献立となっており、利用者からも好評を得ている。居室は家族の協力も得ながら、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

結果を活かし、具体的な理念の作成、地域との交流、職員の研修、専門家による献立のチェックなど、できることから改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

評価の意義を話し合い、職員が出勤時ごとに評価に取り組み、管理者がまとめているが、職員全員が取り組んでいるとは言えない。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

市担当者、地域住民代表者、家族らを招き、楽しく活発な会議を開催している。2か月毎の定期的な開催と、様々な分野のメンバーの参加を得ることで、ホームの取り組みや報告、評価の公表を行い、出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしていくことを期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

重要事項説明書に苦情申立て先を明記している。家族の来訪時等には話しやすい雰囲気築きながら問いかけ、意見を聞くよう努めている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

祭りの際の神輿の乗り入れや、民生委員との交流で情報交換等の機会がある。マンション管理人にも、ホーム行事への参加を呼びかけている。近くにある短大の研修やボランティア活動を受け入れている。また、新たに年4回の町内清掃への参加も決めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール桑原

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)
氏名 谷本 貴子

評価完了日 平成 20 年 6 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作っている。 (外部評価) 設立時の理念を再度見直し、地域密着の役割を盛り込んだ設立当初の理念を基本理念としている。		理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地にしている。また、6月からは理念に基づいた「今月の目標」を職員で話し合いより具体的な目標を立てている。 (外部評価) 管理者と職員は、カンファレンスで理念を確認し、話し合っている。毎月、理念にそった具体的な目標をユニット毎に作成し、ユニット入口やトイレに掲示して、実践に向けて取り組んでいる。		自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらえよう取り組みはできていない。		もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方や同じマンションの方々と、日常的なあいさつ程度の交流はあり、すこしづつではあるが、ボランティアとして援助していただいたり、行事の声掛けをした時に参加していただいたりと交流は増えてきている。		職員全員で地域で暮らすことの意味を理解し、日常的な交流を増やす機会を作る努力をしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭や地域の夏祭りにも参加させて頂いている。学生ボランティアの受け入れや、大学祭にも招待して頂いている。 (外部評価) 祭りの際はホームに神輿が乗り入れてくれたり、民生委員から情報をもらったり、マンションの管理人と交流したり、近くの短大生の研修やボランティア活動を受け入れるなど、交流に努めている。新たに年4回の町内清掃にも参加することになっている。地域のイベントへの参加や、近隣の幼稚園、小・中学校などの交流機会はまだまだ少ない。	※	運営推進会議を手がかりとし新たに地域活動にも参加できるようにしていきたい。 町内清掃への参加など、徐々に地域との連携が進んでいるが、運営推進会議等を通して、さらに地域住民代表者や学校などとの交流にも積極的に取り組むような工夫を期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やカンファレンスで話し合い、意見が出ているので具体的に出きることから取り組んでいきたい。		町内会の清掃活動への参加から始め、交流の機会を増やして生きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないができることから改善して行こうとしている。 (外部評価) 評価の意義を話し合った上で、出勤時に職員が自己評価に取り組み、管理者がまとめている。外部評価は前回の結果を活かし、地域との交流、職員の研修、外出支援、栄養摂取など、できるところから改善に向けて取り組んでいるが、改善目標が明確でなく、計画的には行っていない。	※	全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にし、できることから改善していきたい。 改善計画表を作成し、短期及び長期の目標に向けて計画的に取り組む、サービスの質の向上を図ることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の初回開催が遅かったので、まだ十分機能していき、サービス向上に活かされるのはこれからだと思う。		外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるのを、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。
			(外部評価) 市担当者、地域代表者、家族らを招き、堅苦しくならないように活発で楽しい会議を開催しているが、2か月毎の開催ではなく、参加メンバーもやや少ない。また、議題の提示がなく、会議録も残していないことがあり、ホーム運営やサービスの向上に十分に活かせていない。	※	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。		ホーム独自の現状や課題を取り上げて行き来する機会を積極的に持つよう、連携に努めることを期待する。
			(外部評価) 市担当者や直接行き来する機会はまだ持っていないが、同法人のグループホーム管理者等を通じて情報を得ている。	※	
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を利用している人がいて、今後必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしている。		特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでいきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンスを利用し、職員全体で考える機会を持ち、虐待防止に努める。		継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態等を家族の訪問時、また電話やメールで知らせている。金銭管理については領収書のコピーを渡し、金銭出納帳を確認してもらっている。		月に1度出納帳の確認ができるように面会に少ない家族へは郵便物で送付できるようにしていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情相談窓口を明示している。また、家族とは日頃から話しやすい関係づくりに心がけ、訪問時には積極的に意見等を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。また、カンファレンスの際に、職員の意見・提案を積極的に聞き反映させている。		アンケート等を利用し、職員の小さな意見も聞き取り、取り入れるようにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) パートタイムの職員の協力もあり柔軟な対応ができるようになっている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 運営者は馴染みの関係の重要性を認識してなるべく異動を抑えるという方針をとっており、開設以来、法人内での異動はあったが、ここ1年の異動や離職はない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 今年度より、必要な研修は勤務時間として参加出来るようになり案内も皆に見える場所に提示し勧めている。また、社内の研修も主治医の協力も頂きながら行っている。 (外部評価) 県グループホーム連絡協議会に所属し、研修や講座の情報を掲示している。勤務時間帯での受講を勧めており、職員数を増やして受講機会の確保に努めている。受講後は報告書を作成し、内部研修として伝達し、共有している。		段階ごとに計画して行うようにしていきたい。また、研修の内容をみんなで共有出来るように、報告や発表の時間を作っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 見学や研修等の要望がある際は積極的に受け入れており、情報交換の良い機会と捕らえている。また、グループホーム連絡協議会の相互研修に参加する予定とし包括支援センター内でのグループホームの交流にも参加していきたい。 (外部評価) 研修受講を機会に、職員が個人的に同業者を訪問するなどしているが、ホーム相互の交流には至っていない。今後は、地域包括支援センターの地区グループホーム相互研修や、県グループホーム連絡協議会の相互研修に参加予定である。		見学、研修の機会を増やし、情報交換、ネットワーク作りを積極的に行い、職員のサービスの質の向上に取り組みたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の交流会を提案したりしているが、職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。		今後もできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修の参加によるモチベーションの向上や、行事の計画や日常的なケアの気づきなど、職員全体で意見を出し合い評価し意欲が出るように努めている。		職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 (外部評価) 管理者等が家庭や病院などを訪問をして、本人・家族と話し合ったり、ホームを何回か見学してもらうなどして、徐々に馴染みながら納得してサービス利用を開始できるようにしている。急な入居の場合は、しばらくの間、家族に毎日来てもらうなど協力を依頼し、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常生活での会話から、生活の知恵を教えて頂く事も多く、それを生かしていく努力をしている。また、入居者同士の関わりの中での支え合いの場面も支援できるようにしている。 (外部評価) 職員は、食事やおやつ、作業等を共にしながら、利用者の得意なことを聞き出したり、体験に基づく教訓を教えるなどしている。職員の子に対しても思いやりのある声かけをしてもらうなどの関係を築いている。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいいけないものでもあるのでそうしていきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にしか出来ないケアがあると思うので、細かく情報を提供し、家族と相談しながら一緒に支えていく意識を持って頂ける様に協力してもらっている。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいいけないものでもあるのでそうしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族と一緒に外出できる機会や共に食事が出きるような機会を持てるように計画したり、日常の面会の際にも可能であれば一緒に食事やお茶を摂って頂き、職員もその意味を理解している。		月一度の行事計画を家族様も参加して頂き、また協力していただける機会となるように今年度は計画している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が必要に以上に介入せず、見守ることで入居者同士の役割が出来ている。また、トラブルになりそうな時は、話し合い援助させていただいている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在そういった関係の利用者、家族はいない。		必要としている利用者や家族とはそうしていくつもりである。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) アセスメントと日々の関わりの中での会話や気づきから、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、カンファレンスで共有している。職員は、研修での学びも利用者の思いの把握につなげるよう努めている。		センター方式を取り入れて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) アセスメントとしてのケアチェック要約表を基に基本的な計画を立て、家族に確認してもらっている。職員のほぼ全員が出席するカンファレンスで更にきめ細かい援助計画を立て、個別の介護計画を作成している。今後は、利用者の的確な把握と分かりやすい書式としてセンター方式を取り入れようとしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) ケアチェック要約表を基に、毎月及び急変時に見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。また、本人及び家族に確認してもらっているが、確認印は得ていない。	※	見直した新たな介護計画についても、本人及び家族の意向や要望を確認したことがわかるようにサインをもらうことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。 (外部評価) 理美容院の利用、温泉への外出、家族の宿泊など、本人や家族の要望に柔軟に応じられるような支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議での係わりがあるが、現在具体的にそういう例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関に同行して受診を支援し、受診結果は家族に報告している。また、申し送りノートに記録して、適切な医療を受けられるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態の変化が大きい場合や、必要と思われる際には職員全体でのカンファレンスを行い、対応出きる状態を整え、また家族様、主治医との話し合いも行っている。 (外部評価) 利用者の状態変化に応じて、訪問看護の下で家族の協力を得ての看取り方針を全員で共有しているが、入居時の早い段階からの話し合いは行っていない。また、看取りのマニュアルは作成していない。	※	ホームの基本方針を入居時の早い段階に伝え、繰り返し関係者らと話し合い、専門家の指導の下で、経験も活かした看取りマニュアルを作成し、全員で方針や看取りのケアについて共有することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。 (外部評価) プライバシー確保についてカンファレンスで話し合い、日々の関わりの中で、職員同士がその都度注意し合っている。また、利用者の尊厳と権利についての研修等に参加している。	※	お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。 利用者がトイレの戸を閉め忘れたり、使用時にうっかり開けることも考えられるので、カーテン設置などプライバシーに配慮した工夫について職員間で検討してみることを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。また、趣味や希望を担当職員が中心となり生活に取り入れられるよう援助している。 (外部評価) 入浴や食事など、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしを支援している。		工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。また、いままであきらめてしまっていたおしゃれを少しでも出きるよう訪問美容院等も利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度の要介護者の割合が多くなり、参加できる人が少なくなってきたり、参加することも少なくなってきたり、部分的に準備や片付けに参加してもらっている感じになっているが、レクリエーションとしてとらえ、全体で料理を作り楽しむ機械を作っている。 (外部評価) 料理の下ごしらえや下膳などで利用者の力を発揮してもらったり、利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら和やかに食事をしている。		準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。日中は失禁パンツへ移行できた入居者もおられ職員も職員も手ごたえを感じている。		オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 日中に入る方、就寝前に入る方と、希望を取り入れ入浴して頂いている。 (外部評価) 3日毎の入浴を基本に、清拭やシャワーで清潔を保っている。毎日の入浴希望や時間の希望などもあり、本人の希望やタイミングに合わせて支援している。入浴が苦手な利用者には、時間をかけて声かけしながら誘導している。		今後も個々の希望を取り入れて支援していきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 花作り、生け花、料理をしたり、歌本を用意して皆で歌うなど、好きなことや得意なことで力を発揮してもらっている。そうめん流し、花火、月見、紅葉狩り、クリスマスなど、年間を通じて家族も一緒に季節のイベントなどを楽しめるよう支援している。		工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、個々でおこづかい程度ではあるが財布をもってもらい自由に買い物を買ったり、本人が家族の了解のもとである程度のお金を自分で管理されているかたもおられる。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) おおむね出来ている。 (外部評価) 希望にそって散歩や買い物に出かけたり、体調に合わせてドライブにも出かけている。外出が難しい利用者には、中庭のベンチで季節の花を眺めながら外気に触れるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と旅行に出かけたり、外出されたりする方もいる。また行事で外出する際には、入居者の意向を取り入れて計画を立てるようにしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 利用者の居室だけではなく、他の入居者さんや職員とも交流できるようにフロアで頂いたり、お茶や場合によっては食事などをして頂いて和やかな雰囲気が出ています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。 (外部評価) 日中は鍵をけず、自由に入出りできる。利用者の外出傾向を把握して見守りしているが、玄関から居間までの廊下が長いこともあり、チャイムをつけている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様にしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) カンファレンスや申し送りノートを利用し情報を共有し個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) カンファレンスで話し合い取り組んでいる。また、申し送りノートをヒケリ・ハットにも利用し危険防止にも役立てている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ちていて対応できるほどにはなっていないと思う。急変時のマニュアルは主治医や看護師の指示を受けながら作成し皆に分かる場所に置いている。		回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていききたい。また、繰り返し話し合う機会を持ちたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。 (外部評価) 防火・避難訓練を年1回実施している。緊急連絡網はあるが、防災マニュアルは作成していない。また、地域住民の協力も得られていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。 災害マニュアルを作成し、またホーム独自の自主的な避難訓練を計画的に繰り返し実施することが望まれる。運営推進会議等を通して地域に協力を依頼し、近隣の方への声かけを心がけ、災害に対応した地域との連携体制の整備を図っていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段の様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。また、主治医や看護師への報告・指示をもらっている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。また、薬の変更があった際は、申し送りノートに記入したり副作用も記入したり看護師から指導してもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 訪問歯科医を利用し、必要な場合は指導・管理や日常生活のアドバイスをもらっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事水分量ともに記録に残したり嗜好や状態などにも配慮し提供している。 (外部評価) 職員が立てた献立を管理栄養士にチェックしてもらい、また利用者の持病に対応した食事のアドバイスも受けている。食事の摂取量や水分量を毎回記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じて適切に支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行き、買い溜めや翌日までの作り置きというのを基本的にしないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口は緩やかな勾配でスロープ状にしていって手摺を取り付けており、玄関周りに草花を植えて親しみやすくしている。職員全体で気持ち良い挨拶ができるように取り組んでいる。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂・居間がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。 (外部評価) 観葉植物や花、絵画などを玄関や廊下の随所に飾っている。居間にはゆったりとくつろげるソファを置き、七夕の笹飾りが季節感を感じさせる。食卓に飾られた季節の花の一輪挿しは、会話のきっかけにもなっている。居間を見渡せる台所からは、職員の動きが間近かに見られ、調理の音や匂いが生活感を感じさせる。しかし、業務に忙しい日々が続くと、隅々の清掃が行き届かないこともある。	※	利用者と一緒に毎朝の掃除等を実施しているが、ホーム行事として大掃除を計画的に行うなど工夫しながら、居室も含めて日常的に清潔に保つような配慮が望まれる。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているので、以前使用していた家具や仏壇を持込んでいる利用者もいる。 (外部評価) テレビ、仏壇、家族の写真、花や観葉植物など、家族の協力を得ながら利用者の好みの物や馴染みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や花壇があり、利用者と一緒に洗濯物を干したり、利用者が中心となって花を育てて楽しんでおられる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない (自己評価)	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、それを日々の記録に残し、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない (自己評価)	おやつや、食事の際は職員も一緒に談話しながら、ゆったりと過ごせるよう食卓につくようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	食事や入浴の時間以外は比較的本人のペースで過ごされている。また、出きる限り個々に対応できるように努力している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	好きなことや、趣味を生活の中に取り入れたり、コミュニケーションやスキップを積極的にとることで、とてもよい笑顔が見られている。また、職員もそれを目標としている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ていない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	平日は、2週間に1度の訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることが出来るようになってきているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。また、看護師が介護職としてではあるが勤務しているのと、訪問診療の看護師との連携もとれ相談しやすい状況となっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない (自己評価)	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からないが、そういう関係を築く努力は行っており、職員も訪問しやすい雰囲気を作れるように対応に気をつけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない (自己評価)	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の開催数が少なく、交流が広がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれていたというのはあった。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事ではそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いていて、職場に自由な雰囲気があり、何でも相談し合える関係は築けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ケア担当者だけではなく職員全体で入居者が何でも話せる状況を作る努力をしており、利用者からの意見も良く聞こえてくるため、取りいれるようにしている。また、無理な場合もなるべく納得していただける対応をとらして頂いている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。また、状態の変化や日常の様子も面会の際や電話などで、なるべく細かく報告し家族様と一緒にケアの方向を考えていくように努力している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

ユニットでなじみの関係が築けていると感じます。利用者さんが、それぞれにいつの間にか役割を持ち、支えあって暮らしている。その場面を少しでも援助できるように職員は「普通の暮らし」とは何か、「どうすれば笑顔が増えるか」を考え話し合いながらケアに取り組んでいます。その為には、家族様や地域の方々の協力が不可欠だと思っており、また支えて頂いていると思っています。これから当ホームが、もっと安心して暮らせる場とするために地域との交流に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)
氏名 谷本 貴子

評価完了日 平成 20 年 6 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作っている。 (外部評価) 設立時の理念を再度見直し、地域密着の役割を盛り込んだ設立当初の理念を基本理念としている。		理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に基づいた月の目標をカンファ時に話し合い作成して、ロビー等に貼り普段から意識して理念の実践に結びつくようにしている。 (外部評価) 管理者と職員は、カンファレンスで理念を確認し、話し合っている。毎月、理念にそった具体的な目標をユニット毎に作成し、ユニット入口やトイレに掲示して、実践に向けて取り組んでいる。		自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらおうような取り組みはできていない。		もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 年に1回ホームで花火をする時に近所に声をかけるようにしているが、他はあいさつ程度で、日常的な付き合いとまではなっていない。		近くの保育園と高齢クラブとの交流を計画しておりそこから日常的な付き合いを広げて生きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。 (外部評価) 祭りの際はホームに神輿が乗り入れてくれたり、民生委員から情報ももらったり、マンションの管理人と交流したり、近くの短大生の研修やボランティア活動を受け入れるなど、交流に努めている。新たに年4回の町内清掃にも参加することになっている。地域のイベントへの参加や、近隣の幼稚園、小・中学校などの交流機会はまだまだ少ない。	※	行事等にも参加できていなかった為、まずマイロード清掃に参加し、そこから地域との付き合いを深めていきたい。 町内清掃への参加など、徐々に地域との連携が進んでいるが、運営推進会議等を通して、さらに地域住民代表者や学校などとの交流にも積極的に取り組むような工夫を期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対しての取り組みはできていない。		地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくると思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないが、できることから改善して行こうとしている。 (外部評価) 評価の意義を話し合った上で、出勤時に職員が自己評価に取り組み、管理者がまとめている。外部評価は前回の結果を活かし、地域との交流、職員の研修、外出支援、栄養摂取など、できることから改善に向けて取り組んでいるが、改善目標が明確でなく、計画的には行えていない。	※	全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にすることから改善していきたい。 改善計画表を作成し、短期及び長期の目標に向けて計画的に取り組む、サービスの質の向上を図ることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の初回開催が遅かったため、まだ十分機能していません、サービス向上に活かされるのはこれからだと思ふ。 (外部評価) 市担当者、地域代表者、家族らを招き、堅苦しくならないように活発で楽しい会議を開催しているが、2か月毎の開催ではなく、参加メンバーもやや少ない。また、議題の提示がなく、会議録も残していないことがあり、ホーム運営やサービスの向上に十分に活かせていない。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるため、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。 地域のより多様な分野の方に参加を呼びかけ、2か月毎の定期的な開催を確保することを期待する。ホームの取り組みや課題、評価の公表などを議題に挙げ、出された意見や要望をサービスの向上に活かすことを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。 (外部評価) 市担当者と直接行き来する機会はまだ持っていないが、同法人のグループホーム管理者等を通じて情報を得ている。	※	ホーム独自の現状や課題を取り上げて行き来する機会を積極的に持つよう、連携に努めることを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在Bユニットには成年後見制度を利用している人はいないが、必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしている。		特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学びたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めている。		継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。 <hr/> (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態等を家族の訪問時、また電話やメールで知らせている。金銭管理については領収書のコピーを渡し、金銭出納帳を確認してもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。 <hr/> (外部評価) 重要事項説明書に苦情相談窓口を明示している。また、家族とは日頃から話しやすい関係づくりに心がけ、訪問時には積極的に意見等を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 運営者は馴染みの関係の重要性を認識してなるべく異動を抑えるという方針をとっており、開設以来、法人内での異動はあったが、ここ1年の異動や離職はない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 必要な研修は、勤務時間として参加でき費用も会社負担となっている。職員に応じた研修の参加を促しているがまだ不十分である。なお、主治医による勉強会も行っている。 (外部評価) 県グループホーム連絡協議会に所属し、研修や講座の情報を掲示している。勤務時間帯での受講を勧め、職員数を増やして受講機会の確保に努めている。受講後は報告書を作成し、内部研修として伝達し、共有している。		段階ごとに計画して行うようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修等に参加した時にある程度の情報交換ができていますが、相互訪問はまだ行っていません。		相互訪問の実施や相互研修の参加を計画していきたい。
			(外部評価) 研修受講を機会に、職員が個人的に同業者を訪問するなどしているが、ホーム相互の交流には至っていない。今後は、地域包括支援センターの地区グループホーム相互研修や、県グループホーム連絡協議会の相互研修に参加予定である。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の交流会を提案したりしているが、職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。		今後できることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。		職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 (外部評価) 管理者等が家庭や病院などを訪問をして、本人・家族と話し合ったり、ホームを何回か見学してもらうなどして、徐々に馴染みながら納得してサービス利用を開始できるようにしている。急な入居の場合は、しばらくの間、家族に毎日来てもらうなど協力を依頼し、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 家事の手伝い（調理・おやつ作り・洗濯物等）や買い物等を職員と共にしている。 (外部評価) 職員は、食事やおやつ、作業等を共にしながら、利用者の得意なことを聞き出したり、体験に基づく教訓を教えてもらうなどしている。職員の子に対しても思いやりのある声かけをしてもらうなどの関係を築いている。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいものでもあるのでそうしていきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいものでもあるのでそうしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在そういった関係の利用者、家族はいない。		必要としている利用者や家族とはそうしていくつもりである。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 把握して努めているがまだ不十分である。 (外部評価) アセスメントと日々の関わりの中での会話や気づきから、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、カンファレンスで共有している。職員は、研修での学びも利用者の思いの把握につなげるよう努めている。		センター方式を活用し、全職員が把握しやすいようにしていきたい

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) アセスメントとしてのケアチェック要約表を基に基本的な計画を立て、家族に確認してもらっている。職員のほぼ全員が出席するカンファレンスで更にきめ細かい援助計画を立て、個別の介護計画を作成している。今後は、利用者の的確な把握と分かりやすい書式としてセンター方式を取り入れようとしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) ケアチェック要約表を基に、毎月及び急変時に見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。また、本人及び家族に確認してもらっているが、確認印は得ていない。	※	見直した新たな介護計画についても、本人及び家族の意向や要望を確認したことがわかるようにサインをもらうことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。 (外部評価) 理美容院の利用、温泉への外出、家族の宿泊など、本人や家族の要望に柔軟に応じられるような支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議での係わりがあるが、現在具体的にそういう例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関に同行して受診を支援し、受診結果は家族に報告している。また、申し送りノートに記録して、適切な医療を受けられるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。 (外部評価) 利用者の状態変化に応じて、訪問看護の下で家族の協力を得ての看取り方針を全員で共有しているが、入居時の早い段階からの話し合いは行っていない。また、看取りのマニュアルは作成していない。	※	ホームの基本方針を入居時の早い段階に伝え、繰り返し関係者らと話し合い、専門家の指導の下で、経験も活かした看取りマニュアルを作成し、全員で方針や看取りのケアについて共有することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) お互いに注意しあっている。また、カンファレンス時等に話し合っている。 (外部評価) プライバシー確保についてカンファレンスで話し合い、日々の関わりの中で、職員同士がその都度注意し合っている。また、利用者の尊厳と権利についての研修等に参加している。	※	今後も定期的に振り返り注意していきたい。 利用者がトイレの戸を閉め忘れたり、使用時にうっかり開けることも考えられるので、カーテン設置などプライバシーに配慮した工夫について職員間で検討してみることを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望を日々の生活に出きる限り取り入れ、その人らしい暮らしの支援に努めている。 (外部評価) 入浴や食事など、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしを支援している。		工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ご家族の協力を得ながらなじみの店に行けるよう努めている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 参加できる利用者が増え、得意な料理やお菓子作りをして頂いている。 (外部評価) 料理のごしらえや下膳などで利用者の力を発揮してもらったり、利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら和やかに食事をしている。		今後も参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンから時間誘導や状態を見てトイレ誘導し、気持ち良い排泄の支援に努めている。		オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 何かしら援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上すべて本人の希望どうりにはできていない。 (外部評価) 3日毎の入浴を基本に、清拭やシャワーで清潔を保っている。毎日の入浴希望や時間の希望などもあり、本人の希望やタイミングに合わせて支援している。入浴が苦手な利用者には、時間をかけて声かけしながら誘導している。		利用者の希望も取り入れながら、できる範囲で個々の希望を取り入れていきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 花作り、生け花、料理をしたり、歌本を用意して皆で歌うなど、好きなことや得意なことで力を発揮してもらっている。そうめん流し、花火、月見、紅葉狩り、クリスマスなど、年間を通じて家族も一緒に季節のイベントなどを楽しめるよう支援している。		工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 本人の希望を聞き、出きる限り外出の支援を行っており、要望も増えてきている。 (外部評価) 希望にそって散歩や買い物に出かけたり、体調に合わせてドライブにも出かけている。外出が難しい利用者には、中庭のベンチで季節の花を眺めながら外気に触れるよう支援している。		特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族旅行や、友人と温泉に出られる方もいて、出きる限りの支援に努めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。 (外部評価) 日中は鍵をけず、自由に入出りできる。利用者の外出傾向を把握して見守りしているが、玄関から居間までの廊下が長いこともあり、チャイムをつけている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様にしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ちていて対応できるほどにはなっていないと思う。		回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていききたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。 (外部評価) 防火・避難訓練を年1回実施している。緊急連絡網はあるが、防災マニュアルは作成していない。また、地域住民の協力も得られていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。 災害マニュアルを作成し、またホーム独自の自主的な避難訓練を計画的に繰り返し実施することが望まれる。運営推進会議等を通して地域に協力を依頼し、近隣の方への声かけを心がけ、災害に対応した地域との連携体制の整備を図っていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段との様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスも考えた食事の提供、水分の確保に努めている。また、管理栄養士による勉強会も計画している。 (外部評価) 職員が立てた献立を管理栄養士にチェックしてもらい、また利用者の持病に対応した食事のアドバイスも受けている。食事の摂取量や水分量を毎回記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じて適切に支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行き、買い溜めや翌日までの作り置きというのを基本的にしないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物の立地条件からBユニットは奥のほうにあり、近隣の人には分かりにくい感じになっている。中庭には草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所から食堂や居間全体が見通せるようになっていないが、食堂の窓は大きくて開放感があり、においや音は感じられるようになってきている。また、各所に観葉植物や絵を飾っている。 (外部評価) 観葉植物や花、絵画などを玄関や廊下の随所に飾っている。居間にはゆったりとくつろげるソファを置き、七夕の笹飾りが季節感を感じさせる。食卓に飾られた季節の花の一輪挿しは、会話のきっかけにもなっている。居間を見渡せる台所からは、職員の動きが間近かに見られ、調理の音や匂いが生活感を感じさせる。しかし、業務に忙しい日々が続くと、隅々の清掃が行き届かないこともある。	※	利用者と一緒に毎朝の掃除等を実施しているが、ホーム行事として大掃除を計画的に行うなど工夫しながら、居室も含めて日常的に清潔に保つような配慮が望まれる。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースにソファを置いたり、中庭にもベンチを置いて自由に利用しているようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているので、以前使用していた仏壇を持込んでいる利用者もいる。 (外部評価) テレビ、仏壇、家族の写真、花や観葉植物など、家族の協力を得ながら利用者の好みの物や馴染みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごさせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴の時間以外は比較的本人のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、寝たきりの利用者も職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。また、昔行っていた編み物等を、職員が教わりながら共に行っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望通りとは行かない場合もあるが、ご家族の協力も得ながら買い物・ドライブ・花や動物を観に出かける回数が増えている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	2週に一回主治医の往診があり、勤務しているナースが利用者の状態把握に努め、必要に応じ主治医の指示を受け対応している。また、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることが出来るようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能になっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	行事への参加が出来ていなかったため、交流は広がっていないが運営推進会議で様々な意見を聞くことが出来、これを参考に計画はしている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事中はそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。